









勝元飛龍の書院として方丈とあり。このゆくは遠  
北の神々の住居の方丈といわれつゝ勝元は東極極  
天下と傾けられ。私よ大船と大明國ははくつて  
畫圖是紋縮帛乃類。どくの政和とありて  
秘伝あり。その時の紅の牝柱は太船の材木とほく  
つゝといひ新安守善信の時より建て方丈の板床也  
まらう。そのめいもみんじり。まらう。ふ條に堅密の床  
まらう。和木のふよふあはれつゝ。方丈の若くは  
山とがま。樹木と極。紫の太さから北なり。是は極え  
つゝ。その度候と括圖して。氣氣なり。りく。懸  
軍。ふよふなり。水とよ。免雁。参。不。得。や。む。じ。き。

わさび。海。興。業。廻。——。松。林。は。よ。ら。り。ふ。古。人。乃  
緑。樹。新。は。て。い。莫。亦。よ。上。海。流。じ。ん。も。う。た。れ。や  
み。く。の。辛。心。と。是。う。り。中。よ。す。む。ま。そ。大。才。た。り。石  
丸。あり。是。ま。と。極。え。つ。つ。配。つ。と。重。ろ。ふ。その。地  
志。は。始。なり。と。ぞ。極。え。政。務。乃。い。と。海。よ。六。帝。に  
い。寺。ふ。と。ろ。ろ。し。方。丈。よ。な。り。て。地。中。の。系。と。極。め。  
酒。鳥。と。保。し。と。け。る。夏。乃。形。器。熱。の。海。は。志。び。く  
比。の。志。こ。し。遠。寓。し。道。智。の。人。と。志。り。を。ま。た。い。し。  
つ。し。と。ふ。衣。指。と。脱。す。て。あ。つ。つ。ふ。た。ら。し。は。水。よ  
飛。入。く。あ。け。さ。と。の。ど。志。が。く。わ。ら。く。こ。の。海。  
海。と。ま。わ。り。その。ま。く。方。丈。よ。入。く。お。師。寢。り。







ありあつ年の友の言にけりごと細細り山をの  
 漁織も七八人けり言入るるしひそくに方丈  
 の方とていふ人をももつてけりしとゆふ  
 こと。漁織もたれやう人今ハ管領もさうさ  
 あり次守備も比りきしとゆ。寇先一乃を  
 十やうして志のい入る材更とてりんとく  
 地の岸指とほしひ。魚さその戸もけりるが  
 ありていひわがんとすらふ。おひしとて次は  
 のまん中ふその大さ一丈ごうり乃蝦蟇うづら  
 いらとわけまふこととていふ。そのひり  
 とそたる鏡のごとく。漁織も肝と清ては入

そのまゝ外一例らけ蝦蟇たらまら大将しおが  
 しと人となりて起わがり。そばたう刀おひりか  
 んごん竹若ごういお人のままおよわしたと大  
 ようらとくれハ。漁織もなまこおのささめくあ  
 いらら。ままこハ漁人そけりおのりきたまのび入  
 一から。御意也。今とそいを多と一回よと  
 ありせし。あつとらとび人あつしひとらとそ  
 乃がたわり今合の善合とたけい。たんが  
 又由り。漁織もすら不使きた。まことわくふらなり。か  
 たり次ま。いまつを。うら折と人よとらとたうと  
 とくく。る魚し。いつハ。漁織も善合とけり。とら



まうりし。ありごさう。御芳志なりといひ。あはれ  
泣きと忍び泣いて。げおろし。うらた年。ゆえは。い  
盗賊の中一人。塙別。お留。あや。因。い。始。ま。う。こ  
り。き。う。た。り。り。柙。け。難。懐。ハ。孫。え。め。本。か。う。そ。く。か  
う。ら。と。現。し。た。い。い。け。と。礼。ま。入。う。う。盗。賊。と。さ。よ  
え。は。を。ら。ま。う。ゆ。や。志。う。ず。ハ。又。け。う。ら。れ。中。に  
ハ。魁。谷。姥。懐。た。も。つ。子。本。條。さ。忍。あ。も。あ。り。こ。う。心。妖  
怪。の。生。類。も。あり。て。お。ろ。う。や。と。ふ

○甘石子精靈

武州に戸半。之。よ。清水。眼。智。そ。漁。者。伝。り。生  
傳。よ。こ。ま。う。こ。其。名。と。す。そ。て。び。糸。り。と。う。り。の。い。が。う。ま。を

うら入て。い。れ。ら。大。事。あ。ま。も。年。少。も。入。入。ど。殿  
念。と。わ。と。ま。休。神。と。な。げ。て。い。と。く。日。無。負。と。は  
ら。ま。は。ぶ。ぶ。大。う。六。種。ま。や。と。人。も。あ。や。い。は。れ  
い。あ。う。と。う。年。月。と。續。て。す。こ。れ。は。こ。れ。も  
之。果。た。ま。な。ま。ま。其。名。の。玉。も。す。ま。ん。相。對。す。う。こ  
と。な。け。な。ば。人。皆。う。う。け。て。い。て。石。馬。と。ま。い。り  
く。あ。う。と。ま。あ。げ。ば。い。や。う。ら。や。あ。う。年。の。ま。の  
は。あ。ま。り。よ。其。名。と。う。つ。け。け。ん。け。ん。服。も。う。う。れ  
ま。ま。う。く。精。氣。と。敬。む。ん。と。く。小。使。の。破。れ。や。う。れ。物  
と。り。う。也。柏。本。村。高。懸。寺。の。方。つ。て。あ。や。と。ゆ。け。も  
け。音。ハ。派。系。地。志。の。う。て。世。乃。慶。翁。と。な。ま。ま。い。ん



居士文人などいふ事よ通達し。何れも年々かそ  
 一時の興と借せりしは。今も花はらりぬらな  
 き。おろしきなこころも。まじらひし。くさくさ  
 くしりきた。那庵人も。ねん。くさくさ。に。ま  
 ちの。に。が。う。う。の。道。は。ま。二。人。の。あ。い。は。ら。ま。に  
 解しひ。ま。き。解。ひ。し。一。人。の。ち。は。く。は。や。う。た。り。ま  
 一人の色く。く。く。く。人。なら。も。那。庵。と。う。り。そ  
 君。た。び。ひ。ら。と。む。と。た。が。め。あ。う。や。が。に。さ。び。く。興  
 たりん。が。ね。ら。二。人。君。と。い。ひ。し。ら。に。海。と。ま。ま。と。あ  
 づ。ま。ね。れ。ま。え。り。の。ま。ま。う。う。ら。ん。ぶ。あ。れ。ひ。ん。の。は  
 いら。あ。く。さ。ん。む。と。は。縁。ん。と。い。ふ。那。庵。の。こ。ろ。り。ん。知

ら。さ。ま。い。ら。う。の。ど。ね。り。と。い。ふ。ま。ま。に。い。ざ。か。ら。ぬ。酒  
 と。細。細。す。ら。お。い。二。人。ん。下。の。め。し。い。ん。だ。い。う。魚  
 今。世。は。親。子。現。う。基。書。畫。の。風。流。な。う。あ。く。と。こ。ら。  
 情。雅。乃。舞。の。古。樂。あ。て。そ。の。ま。ま。魚。中。ま。ら。り。の。あ。け  
 き。は。地。世。よ。ほ。こ。り。の。基。い。ん。の。解。の。君。と。い。は。う。く  
 魚。の。う。た。ら。が。ま。も。ね。く。ま。は。そ。り。あ。ら。は。い。は。い。は。い  
 今。の。代。よ。ま。ま。ま。く。ん。及。び。あ。や。で。ら。ら。と。ま。れ。ば  
 那。庵。り。づ。し。と。解。解。と。ま。や。あ。お。ま。そ。と。身。と。う。ま  
 け。い。が。あ。ら。う。と。い。ひ。必。然。守。乃。名。林。あ。の。様。の。い。れ  
 と。ま。ま。あ。ら。う。と。い。ひ。の。ま。ま。様。の。こ。ろ。と。い。は。れ。わ。ま。あ。く  
 人の。ま。ま。あ。ら。う。と。い。は。な。づ。め。た。ら。う。と。い。は。ら。ら。ん



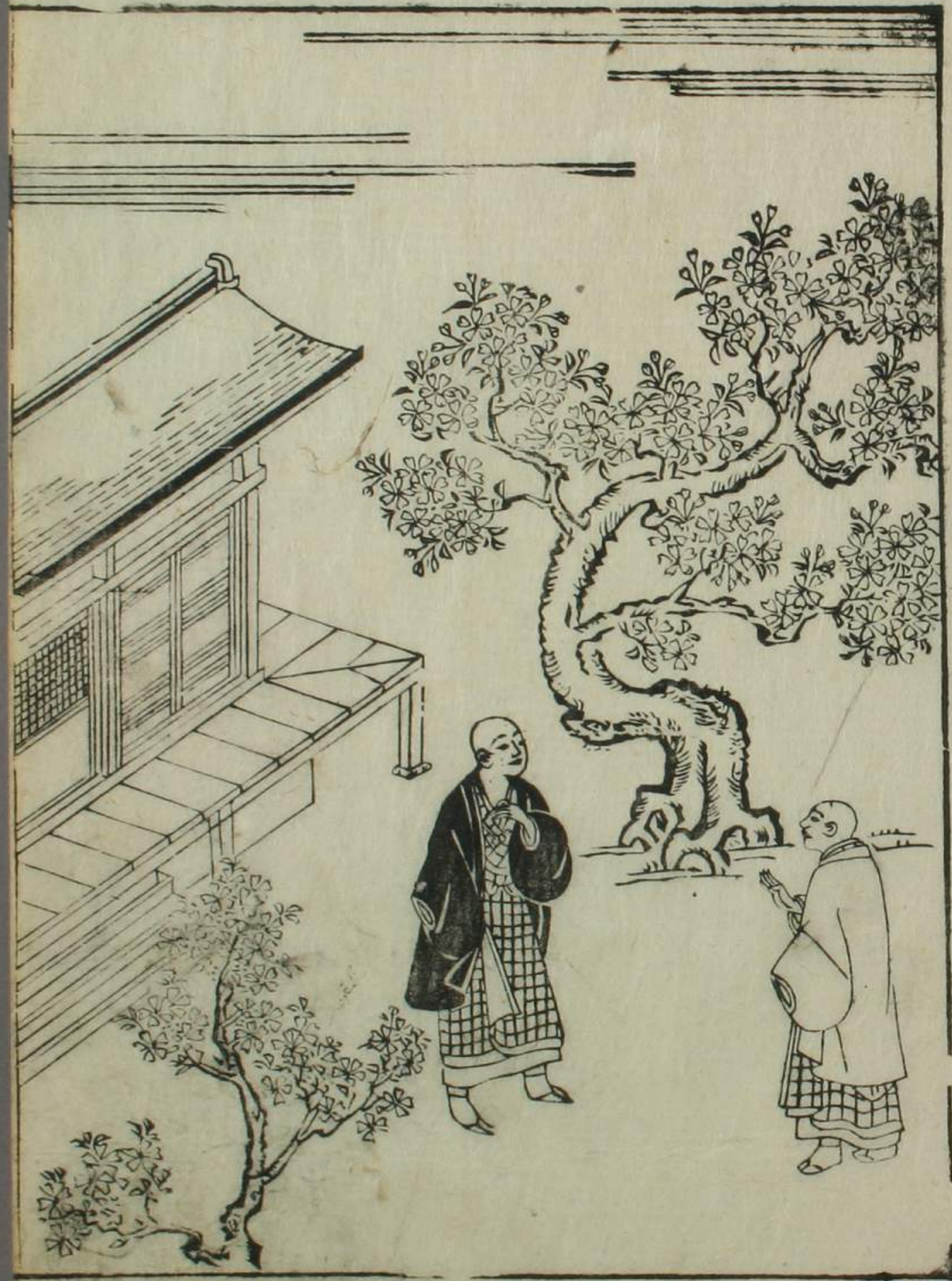




ひらくも経なくくれまづのめり君とば後又きん  
 大將おほしやうしあつくせなごりあて河がよたふなるり  
 そかつらと一はの名なりともや。右馬の猪けあな  
 がさきまひ一時よげく極らま一極たるとしつら  
 うふむい志たぐくまひいんかふかふととままととままととまま  
 と海人の波なみまそそのつらごとつらごとつらごとつら  
 とまあつゆふ。むと右馬の極しつひ。材と柏木村  
 名つけたりとてころとほごけつふ。寺のころ  
 よまごつちをたつ花あつといは一人の白の経門  
 つまの波なみ縁えん吟ぎんしていつく  
 ひらくはる花のころや 重かさねりかさね

おうおははええはは人ひとののゆゆははととままととままととまま  
 本もとののふふ幕まくらととままととままととままととまま  
 幕まくら半はんははすすととままととままととままととまま  
 事ことととままととままととままととままととまま  
 ののゆゆははととままととままととままととまま  
 ららととままととままととままととままととまま  
 ぐぐととままととままととままととままととまま  
 ととままととままととままととままととまま  
 ららいいととままととままととままととまま







陽やう不ふ芝し花かハ何なに人のおらも何なにもしてさし。怒いか  
とさうゆゑにさして

しよらうこあはさうや怒いかお後ごよ思おも  
んく又またこまん幕まくらと打うてささうとさうおそおん  
しよひけく

花はなのほろとらふさうさふおのほ 白  
唯ただ存ぞんいのまさとすうたにたうくもたうらうたれ  
びんとすまうけらふこうに幕まくらあさうらうたれ  
たうびわて海うみ島しまと備び花はなと泳およじら中なかよ  
らうたすまうらうらうらうあてあうらうらうらう  
らうらうらうけほのたにんさうさういさう声こゑうたれ

思おもやむらうささうらうれまこれ 白

花はなのさうさうあひわらや慎しんのさ 白

中なかあさうたう縁ゆかりをえのまうああ場ば 白

唯ただ後ごいさうさうらうらう群ぐん集しゆ乃のあうてけ二人ふたりと  
見みうたひたうくあまさういゆさうこえさうけく  
勢せいとけられさうさうさうさうさう

もさうらうとさうらうらう何なに花はなの友とも 白

何なにさうらうあひさうれ

見みさうらうとせあやなうまえ花はなを 白

おまさうらうらうとさうらうらうらうとさうらう

何なに町まちらうやうらうらうらうさうの友とも 白







しきりそのくよひりて

こころをくくくはふいむなる白雲か  
 白  
 白と縁の花の下よまきり。けつ枝とりていさ  
 くにせ海りしれじんめらる目ねらけあし  
 さんしよめ地居やそこまわたくまねたるむれ  
 ば何ふく海らんたらくも所えしつらるれ  
 花の枝い如えらごとく切てそれ  
 白  
 とふんよを縁けけよう一花のふ  
 思  
 りたるとは縁けしてあやあし  
 白  
 ねえらるちや枝の橋をいよ  
 思  
 花守のそがえらん時えいふんきん  
 思

多岐とせよとらうあめら花の枝  
 白  
 花守やあふとん付て遊あし  
 思  
 見えとてく一回あり目めよむれを  
 白  
 むあふ遊てもんまー 岩松遊  
 思  
 ねえらあちふ二まこの花の香  
 白  
 こころをくくくはふいむなる白雲か  
 思  
 あとあまうでうらてもれを遊  
 白  
 花のゆりそちつうと枝とをゆまわら  
 思  
 してけ極ふりて  
 思  
 むあしけてだにんしけのう  
 白  
 多ふけ寺にあししきとら人数い  
 思



めく舞乃たけめ群集やむの山  
 稽や人まくにあむぬちたの山  
 夕のふいしんとど花や赤じゆ  
 さいぜんらうと唯花が小僕花の陰よけらあは  
 びわくろとふほたに人とりを声をあけて  
 うべから。あつくたむらうこさそはひはん。はらえ  
 うつあつらんせつた。花集らうたひ。集は  
 りつたまふゆりわらたれが。はらひりちさむ山  
 人のづきゆくまきつら。同のまよまきびくたうね  
 集もたごるとおたごり。海はあましきまふら  
 いぜんらう二人乃たけ。こよあひかき。こた

行のたけひし。あまら無興なほ人たけ  
 茶乃梅ハ杉あまら花らんれ  
 と海ド二人よ志や。さほくても君さういふら  
 其の世とろぐれあらや。まも團長乃す  
 りあ。そのばと括む。まかしと。二人さて  
 とうとうり。とれんあわ。一人海をさう。又  
 一人山家ら。とる。海は。取道乃ま。り  
 名と知を。あむ。穀地。美石。公。仙。志  
 又そのまは。とまる。り。年。乃。山  
 岩と。り。まの。と。人。新。あ  
 付。又。世。同。と。て。極。興。ま。り。感。ず



わまは。極く修治の戯となりてたゞさめと云。今ハ  
をまてたりこそ。一函の文書と云を以て方々  
せしける。昨夜辛夷のさひとなり。あまふは  
らく事乃決事と案ずりた。の二人。氣ハ海に親  
し。あらししい。もくもたさ。是れ精  
靈ありし。あまふとひけり。たらし。いささ。の  
まをと扱。こふ。古文。そは言ハ句乃飾あり。  
その文よ。いさく

順勝 逆負  
性来 一轍  
一秤 秋水

動拔 靜安  
無應 多端  
無人 半側

知玄 知白 是曰 僊客  
是らと能なり。元と圓。基乃。名。人。と。た。つ。こ。も。は  
笑ひ。者。も。こ。ら。く。り。あ。ま。け。ほ。は。江。中。と。と  
あ。つ。て。敵。對。ら。る。者。た。ら。う。と。こ。や

○死身玩物

周防の太田左京大夫義隆が。以て。琳瑯を。た。り。平。七。代。の  
末。あ。つ。て。湯。長。置。能。に。因。酒。乃。大。手。な。れ。ハ。家。門。の。絶。え  
昌。茂。富。れ。名。氣。高。む。時。都。鄙。に。府。と。た。り。あ。る。者。な。り  
ま。つ。の。み。ゆ。く。義。隆。嗜。る。り。こ。ら。く。と。長。く。家。の。没。民。の  
た。げ。さ。と。り。と。は。あ。け。と。事。車。内。流。と。事。と。春。に。花  
の。し。と。遊。び。た。り。と。は。林。は。有。り。と。事。と。年。と。り。と。は。飲



後天の湯の金と借し、鑛産を乃々之に山海のわ  
 下致給ふ人、之に借し、酒、高、柱、奥、い、海、た、う、け、付、天  
 下一同、我、國、の、世、と、た、り、と、は、け、う、こ、も、あ、概、た、う、さ、れ、ば、公  
 家、門、に、た、り、の、外、流、産、を、衆、衆、の、は、ま、ま、あ、り、の、ま、で、皆、く  
 義、隆、と、た、の、こ、こ、ら、て、は、け、う、ふ、れ、ふ、さ、あ、ま、の、は、信、行、く  
 よ、義、隆、と、下、賑、い、さ、ら、と、し、た、れ、た、家、も、信、行、れ、給、思、に、矣  
 有、り、候、こ、に、義、隆、の、大、信、行、相、立、遠、に、た、ら、り、と、き、り、あ  
 家、門、の、こ、を、海、産、を、合、集、入、道、隆、房、と、さ、は、り、と、義  
 隆、入、流、言、と、し、り、り、て、海、義、隆、一、候、と、な、り、天、文、二、十、年  
 九、月、朔、海、産、と、く、さ、り、義、隆、の、信、行、山、口、の、衆、一、れ  
 く、信、行、海、産、と、く、さ、り、義、隆、の、衆、一、れ、と、な、り、と、は、信、行

こと、不、寺、入、せ、あ、い、候、い、わ、ら、い、と、ぬ、ま、ま、と、海、産、一、れ、セ  
 ば、是、が、石、川、津、和、野、一、主、題、去、見、大、花、土、捕、取、れ、と、の  
 せん、と、せ、り、り、也、門、乃、内、衛、兵、候、い、の、外、一、の、せ、ま、い、ハ  
 後、松、三、波、守、由、り、出、て、大、松、枝、波、形、候、一、義、隆、と  
 ころ、の、之、百、余、人、と、亦、の、也、海、産、候、衆、と、い、は、れ、也、に、海、と  
 ころ、に、出、た、ま、ふ、海、の、面、を、さ、ら、と、信、行、と、り、り  
 一、義、隆、の、運、命、や、は、ら、ま、い、ん、よ、う、に、向、あ、候  
 わ、り、候、大、信、行、と、さ、ら、と、信、行、と、り、り、候、い、わ、ら、い、に  
 海、産、と、り、り、の、海、産、候、一、一、候、り、り、候、け、何、要、害、の、比  
 たり、候、敵、と、さ、せん、あ、り、候、同、一、信、行、乃、大、信、行  
 寺、三、ら、ん、寺、と、さ、り、り、の、寺、入、せ、ま、い、と、い、大、信、行、寺、と







高野山に於て佛を奉りて名僧をまかせたりしが  
佛は乃法海ありて教を授けんとす時海が  
乞食大將と稱すといふ者大徳と稱し來て  
法をも授けしといふと射け。前後にありて  
高野山に於て佛を奉りて名僧をまかせたりしが  
高野山に於て佛を奉りて名僧をまかせたりしが

付くもいふ所くもいふ所り

如く海亦如電 慈作如是親

け付一ふし自害せり人々冷泉親友法豊一思  
新小幡空良 黒川刑部少輔 岡部大進 大友  
氏部少輔 大田 法政 國臣 是を多かり 中ふし以泉

法豊に指さるるその血を以て大寧寺に  
のくりに禱せり終末あり

みりたりやもあがりそ中絶よ

さきりて思ふすもいふ所

やうふ縁くもあがりそ中絶よ  
たるとふとさだまけたくも標茶がもふけて  
し害するそあましなまはらまはらふ久忍  
の遊歴なきは果して法豊の禱せよとて  
も縁がらもゆえ縁は果かりはさき  
こに御田後まはらふもゆえ縁は果かりはさき  
ふ。御田後まはらふもゆえ縁は果かりはさき



なることいして周防のさくらと世のかりゆくわつ  
 こゆとくいぬかぐらわつ時不栗の事ありて作  
 興のつと盛衰と二三人お興一瀬川のなりこと  
 なるふらわつとく急な飯田の名とびまほりの  
 わつと河表をしらうりこれが流よええくまら  
 の男。白木の文をとりつとけ方とく次くりあふ  
 飯田の中をたぐひつとく地村奥庭をとり  
 けり回村たるそのわて名のり取二十余人塔その  
 一洗したりたれ。たらまら恍惚としてんごまは  
 確たる者のごとく。あまうりてすこ病となりたる

が病中ままうりつとく此柳まきつとくこれたなり  
 なるやこくしとくいふの飯田たれく此柳  
 又はまらうり。あまうりつとくまきつとくま  
 次どののむすつとくいづく月夜の夜よいさうゆ  
 く一はの城跡つとくまら。橋の東北岩鐵と  
 けり造つと撮へはり隅の島橋と繼くつとまに  
 へびへたたる敷石とけり石垣とけり。けり内り  
 一人の真実出て飯田の名とけりまらびまほりの  
 柳すつとら飯田とはまらまら上よのけりまら真実  
 飯田よ同多のやう。たんづいばまらまら何の時  
 けりまらまらやと飯田をすつとまらまらまらまら













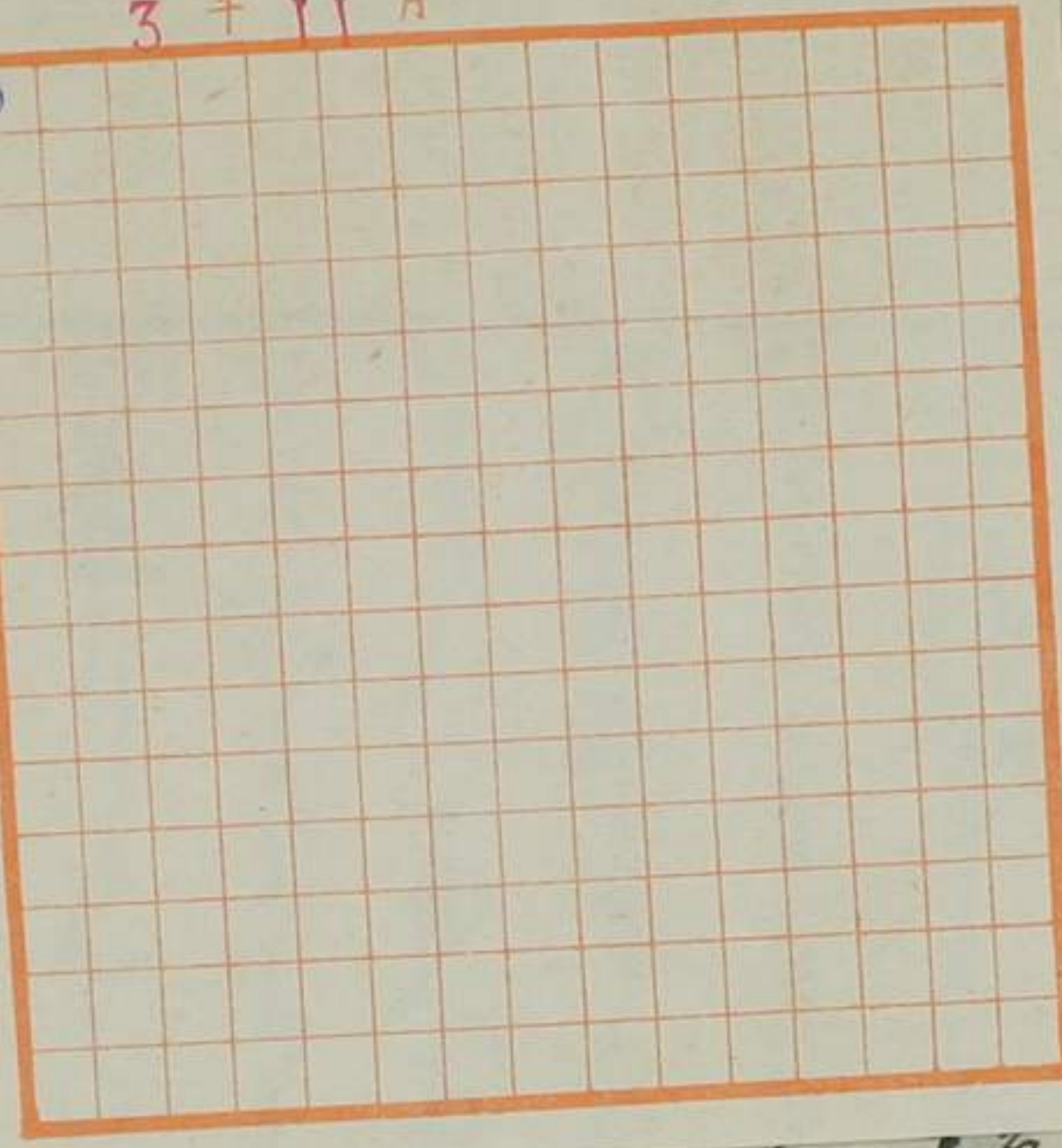






3年11月

①



ありつくりのふりしりてかとうりけいしあ  
 りしりてありふ。是いごんたげさふ  
 下よたらりさ。せんのかいしりてさく  
 故紙よりふ色し。まじりてなは統の事か  
 きたりしと大書して叱りその情  
 け飯田よりと強くとならんが夕  
 一換せしけり飯田死して二ふふ  
 りす。そよ大書せんといふ  
 り。是もさる。死所のいふまじりと  
 けいし事たりて多人推せり



なつらうりくふしとてかとうりにけりいあ  
くもさうてぞありなふ。是いづとんとたげふとふ  
不まだらうりさいぜんの死所いささうらとやく  
故郷よふをいよまじり及びたは統の事なりか  
くは後悔すもいさきたりんと大志して叱つてその背  
とてさうらきふ。飯田のいと経くともなりんば夕  
乃さあそととく。後生いける。飯田死して二りふか  
つたれはあ人ありすが。よ大業をせんといふと  
きうあよさうらまら。死所のいふをいれと  
いさきたりんとけり。いし事たりんと多人推しあり



